

『石垣から出た仏様』

昔、飯川に金剛五ヶ寺があって、栄えていました。現在の天池浩さんのお宅の付近に、その一つの万福寺がありました。万福寺の跡には、昔の盛時を思わせるような大杉が、そびえていました。



大正のはじめ、万福寺跡に徳田織物工場を建てることになり、大杉を伐ることになりました。しかし、「昔から生えている大杉には、神様が住んでおいでる。」というので、みんなまで相談して、神主さんにお祭りをしてもらうことになりました。

天池さんのお庭に、大楓がありました。この大楓にしめ縄を張り、神主さんが祝詞をあげ、神様を大楓へお渡ししてから、大杉を伐りました。その後で、天池さんは、万福寺の跡にあった石を運んできて、家の前に石垣をつくりました。ようやく、石垣が出来上がって、喜んでいたら、どうしたのか、石垣の一角が崩れました。崩れた所だけなおすと、しばらくして、同じところが、また崩れました。それから長い間、石垣は、崩れたままになっていました。

昭和の初め、天池さんが、石垣を修理することになり、今まで何度も崩れた原因を、詳しく調べてみました。すると、石垣の中から、「石の仏様」が出てきました。それを見た人たちは、「これは、もったいないことをした。おそらく、この仏様は、石垣の中から、早く出たいので、それを催促していたのだろう。」と話し合いました。天池さんは、さっそく祠を作って、仏様を安置しました。仏様を取り出された後、石垣は、二度と崩れなかったといえます。

その仏様は、現在、天池さんのお宅の国道わきの祠に安置され、次のような由来記が掲げられています。「由来記 この仏像と手洗い鉢とは、飯川村万福寺の跡、天池氏宅地より、掘り出せしものにて、凡そ千年以前、万福寺の遺物なるにより、ここに安置せりという也。」

金剛五ヶ寺のうち、現在、残っているのは、飯川の光善寺のみであるといえます。

(飯川町 伝承)